

フィリピン台風 30 号被災地復興支援事業

新レイテ医師会館／緊急支援拠点の建設について

平成 25 年 11 月、フィリピン台風 30 号により被災し倒壊した旧レイテ医師会館が、本会からの義捐金を元に被災から僅か 1 年 4 か月という短期間で再建され、本年 3 月 8 日に開所式を迎えた。

本会では、現地で緊急支援活動を行っている AMDA に当初の活動費として同年 12 月、500 万円の支援金を託した。当該資金は、被災地での救急医療活動等に充当された。

その後も、フィリピン医師会と連絡を密に取りながら現地の状況を調査し続け、被害が非常に甚大で、更なる支援が必要であると判断し、同年 12 月に全国の医師会及び日医会員に支援を依頼した。その結果、平成 26 年 3 月末までに 19,343,965 円の義捐金が寄せられ、特に被害が大きく建物が損壊したレイテ医師会館の再建資金として活用された。

当会館の再建は、日本医師会、福山市医師会、AMDA との合同復興支援事業として実施された。福山市医師会は、レイテ島タクロバン市と姉妹都市として、医師と看護師を現地に派遣しており、日医では、そうした活動に対して 100 万円の寄付を行っている。

新レイテ医師会館は、緊急支援拠点としての機能も有しており、これまで以上に、レイテ医師会の活動の、そして地域医療を通じて島民の健康を守っていくための新たな拠点となることが期待される。

なお、本会建物の 1 階には、日本医師会、福山市医師会、AMDA の支援に対する感謝の銘板が飾られている。

本件は、平成 18 年ジャワ島中部地震における被災地復興支援として、日医からの義捐金が、AMDA を通じてジョグジャカルタ郡バングンタパンにおける第 3 保健センターの建設という具体的な復興支援事業に結びついた 2 度目の実績となる。